



担い手通信



JA bank Mix

Topic

今月の話題

飛散小石時速130キロ 刈り払い機事故注意 自動車ガラス砕く 保護具装着を

国民生活センター

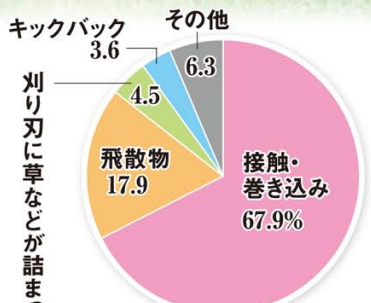
国 民生生活センターは、稼働中の刈り払い機の刃に接触した小石が、最大時速130キロで飛散するという試験結果を発表し、農家などに注意を呼び掛けています。飛散した小石は10メートル離れた自動車側面の窓ガラスを砕く威力があることも分かりました。国民生活センターは「草刈り時は、小石など異物が飛ぶことを前提に、注意してほしい」とし、保護メガネなどの保護具の着用を勧めています。

国民生活センターは、排気量33・5ccの大型刈り払い機に、ホームセンターで売っている刈り刃各種(金属製の4枚刃と8枚刃、チップソー、ナイロンコードカッター)を装着。作動させて、地面に置いた2、3センチの小石にぶつけました。

飛散した小石の威力が最も高かったのは、4枚刃。最大時速約130キロで、67・8センチまで飛びました。10



刈り払い機による事故の原因別割合



※消費者庁の資料を基に作成

落ちました。金属製の8枚刃では時速76キロで30・2センチ、ナイロンコードでは、同48キロで16・9センチの結果。チップソーは、小石が刃の間に入らず飛散しませんでした。消費者庁には2017年6月までの8年間で、刈り払い機の作業中に、指を切断、骨折したなど140件の事故情報が寄せられています。刈り払い機でコンクリート片が飛散して目に入り、視力低下

数字でみえる 三重県の農と食

138.7

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

乳用牛 1戸当たり飼養頭数

農林水産省の「畜産統計(平成29年2月1日現在)(東海3県)」によると、2017年の1戸当たりの乳用牛の飼養頭数は三重県で138.7頭と、愛知県79.0頭、岐阜県47.5頭を大きく上回り全国1位です。16年と比べると愛知県、岐阜県では1戸当たりの頭数はほぼ変わりませんが、三重県では大規模経営体の増頭により5.8頭増加しました。

下につながった事故や、針金が胸に突き刺さって心膜まで達したケースもあります。被害者の半数が60歳以上です。国民生活センターは、市販の小石飛散防止用ネットの使用や、作業場所に小石などの異物がいないか確認し、除去するよう呼び掛けています。

JA一志東部

三雲のいちじく出番

JA一志東部イチジク部会は8月10日、特産「榎井ドーフィン」の出荷を始めた。松阪市三雲地区は、三重県内シェア1位のイチジク産地。「三雲のいちじく」の愛称で親しまれている。生産者が早朝から収穫したイチジクは県印三重中央青果に集められ、共同出荷を行う。10月上旬までに、約30トンを見込む。梅雨時期の水不足の影響で生育遅れが心配されたが、収穫時期は例年通り。果実の大きさ、着色、甘味十分な仕上がりがだ。
(2017/8/11 ワイド1東海)

JA伊勢

くき漬け出荷順調

三重県紀北町の小山浦水利営農組合で、特産品の「くき漬け」の出荷が順調だ。同町では、生産者7人が約30㍍で、原料のヤツガシラを栽培。約90㍍に育ったヤツガシラの茎を塩でよくもみ、仮漬けて1日置き、さらにシソで本漬けをする。梅雨時期の少雨で生育にやや遅れがあったが、品質は上々。出荷は約2トンを見込む。組合員が1束ずつまとめ、JA伊勢海山支店の加工施設で真空パック、加熱処理などの工程を経て製品化する。
(2017/8/15 ワイド2東海)

JA三重南紀

県内先駆け稲刈り

JA三重南紀管内の紀宝町で7月28日、三重県内のトップを切って稲刈りが始まった。管内農家の中西和益さんが圃場(ほじょう)30㍍で、早場米「あきたこまち」を、昨年より2日早く収穫した。管内で「あきたこまち」を取り扱う生産農家は2戸。栽培面積は1.25㍍で収穫量は前年より0.5トン多い6トンを見込む。今年は7月上旬に稲の花が咲き始めたころに、台風3号の影響を受けたが、被害は穂擦れが少しあった程度にとどまった。
(2017/7/29 ワイド1東海)

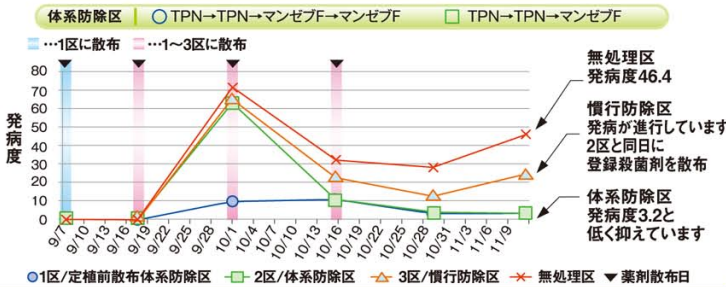
ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介する。

トマトすすかび病発生を抑制 殺菌剤を使用した防除体系技術を確立

ト マトすすかび病への予防効果が高い殺菌剤のTPN水和剤、マンゼブF水和剤を定植直後から10月までの重要防除期に使用する防除体系を三重県農業研究所が確立しました。葉かび病に抵抗性のあるトマト品種が普及したこと、同病を対象とした殺菌剤散布が減少したこと、似た病徴のトマトすすかび病が多発し問題となっていました。トマトすすかび病は前作で発病株率が高いと、伝染源がハウス内に残っているため、定植直後から感染します。また28℃で発病と伝染が盛んになるため、定植直後から10月までが、殺菌剤による効果的な防除時期になります。防除には、TPN水和剤およびマンゼブF水和剤が優れています。実験では2剤を使用した防除体系は、慣行防除体系に比べて防除効果が高く、発病が低くなりました。同研究所では、トマトすすかび病が前作で多発したほ場では、定植前または、定植直後のTPN水和剤の散布が有効としています。

トマトすすかび病の発病度の推移



お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 ☎0598-42-6360

農業を営む すべての方に

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

農業経営資金

すべての農業者の 実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します!

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

平成29年8月現在

【金利情報】平成29年8月21日現在

農業近代化資金

実質金利
年0%~0.30%
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お得にお借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%
(変動金利)